

# 1975年から2021年へ

# 三重とこわか国体へ想いをつなぐ

【問い合わせ】 国体推進課 ☎43・91000 FAX43・91022 ✉kokutai@city.iga.lg.jp

2021（令和3）年9月25日に開幕する「三重とこわか国体」まで約2年となりました。

市では、三重とこわか国体伊賀市実行委員会を中心に、さまざまな啓発活動と競技会場の整備に取り組んでいます。国体の成功には市民の皆さんのご支援と参画が必要です。各種ボランティアやおもてなしなど、個人や団体、地域や職場でのご理解、ご協力をお願いします。

さて、今回は、44年前の1975（昭和50）年に開催された三重国体に高校プラスバンド部の一員として開会式などに従事された榊原成人さんと三重県代表選手としてサッカー競技に出場された高島真哉さん、高校陸上競技部の一員として炬火リレーに参加された堀川郁子さんにお話を聞かせていただきました。



榊原 成人さん

私は、上野高校の吹奏楽部でホルンを演奏していた3年生の時に、三重国体が開催され、伊勢の陸上競技場で式典のバックバンドのメンバーとして選ばれました。

三重国体では、作曲家の矢代秋雄さんが三重国体のために式典組曲を作られました。あまり知られていませんが、今でも演奏会などで演奏されていて、音楽をしている人たちにとっては、式典に参加しただけでなく、この式典組曲がずっと財産として残っています。

若い人たちは、2021年に三重とこわか国体があると知っていても、実際に直接関わることができる人は少ないかもしれません。しかし、参加する以外にも関わり方はあると思います。選手やスタッフ、ボランティアとしてだけではなく、例えば、国体を見に行ったり、参加者として伊賀市に訪れている県外の人に声をかけてみたりして、参加者が楽しい思い出を持って帰ってもらえるようにサポートできます。そういうチャンスはあると思います。



▲参加者に配布されたワッペンとメダル



高島 真哉さん

私は、崇広中学校で教員をしていた29歳の時に、サッカー成年男子の教員の部で、15人の選手の一人として三重国体に関わることができました。当時、県内では伊賀と言えばサッカーと三重国体に関わることができました。当時、県内では伊賀と言えばサッカーと三重国体に関わることができました。当時、県内では伊賀と言えばサッカーと三重国体に関わることができました。

私もそうでしたが、県外から来る選手たちにとっては、試合会場での歓迎を受けることや拍手などの声援が嬉しい思い出になります。東京オリンピック・パラリンピックが終わってからは本格的な広報活動が始まると思いますが、国体は、全国からトップ選手が参加しますので、ぜひ身近で観て応援してほしいと思います。

また、国体は競技種目によっては、年齢に関係なく出場できます。スポーツをすることで健康寿命が延びると言われていますので、三重とこわか国体をきっかけに、体力づくりやスポーツを長く続けてほしいと思います。



▲ハーフタイムでのベンチの様子



前回の三重国体の思い出の品をお持ちでしたら国体推進課までお知らせください。三重とこわか国体の啓発に活用させていただきます。



▲炬火リレーの様子



堀川 郁子さん

私は、陸上部で体育大学をめざしていた高校3年生の時、炬火リレーの主な3人のランナーとして選ばれました。先頭のランナーがトーチを持ち、2番目のランナーは予備のトーチを持ち、3番目のランナーが国体の旗を持って走りました。その後ろに、陸上部の部員が隊列を作って走りました。私たちが高校生は、寺田から千戸までの区間を担当し、当時の上野市から大山田村への中継ぎをしました。

高校生の時に炬火リレーに出たことで国体を身近に感じ、2年前に三重とこわか国体が開催されることを知った時から、何か関わることができないかと考えています。

三重とこわか国体はスポーツの祭典なので、ぜひ伊賀市が盛り上がる起爆剤となるように、若い世代にもアピールして、全ての世代の人がスポーツに親しみ、それが健康増進につながりたいなと思います。そして、国体を次の世代にバトンタッチしていきたいと思っています。